

# 快適に過ごすための排泄ケア

～利用者本位の排泄ケアを目指して～

医療法人耕仁会

介護老人保健施設 セージユ山の手

発表者 介護福祉士 齊藤 奈美子

共同研究者 介護福祉士 岡田 緩菜

# 介護老人保健施設 セージユ山の手

## <概要>

開設 1990年5月

1階通所部門：55名

入所部門2階：40名

3階：40名 合計80床

■2014年6月～在宅復帰強化型施設へ

■2018年5月～在宅復帰超強化型施設へ



# はじめに

排泄ケアは3大介護の1つであると言われている。

当施設の3階入所部門は全体の80%の方が  
介助を必要とされている。

オムツやパットの使用量の増加をきっかけに  
様々な課題が見つかった為、

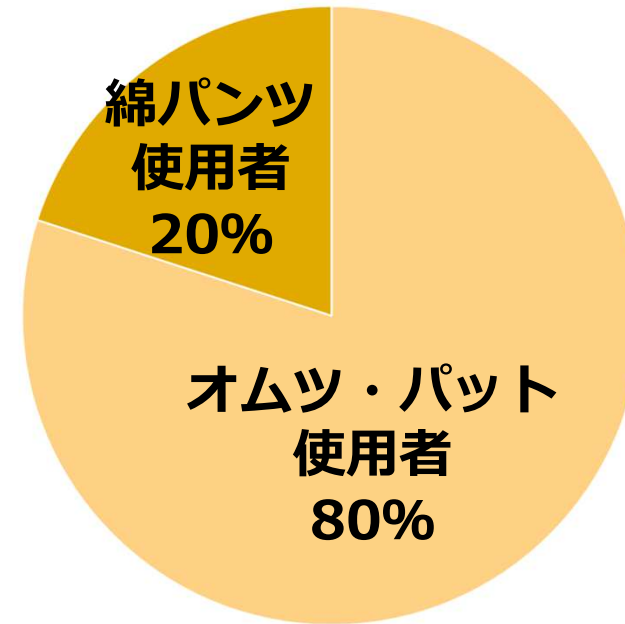
利用者個々に合わせた排泄の見直しと  
コストダウンを目指して

「排泄ケア」の改善に取り組んだ。

# 入所者の排泄の状況

- 介護度平均 2.6
  - オムツ・パット使用者 32名
  - 綿パンツ使用者 8名
- ※ 2022年6月時点

「研究期間」 2022年6月～1年間



## 課題

- オムツ使用者は快適なオムツ使用状況なのか？
- リハビリパンツから綿パンツへ移行できる方はいないか？
- オムツやパットの無駄遣いはないのか？

# 取り組み ①利用者にあうオムツ・パットの選定

＜方法＞ オムツ・パットの見直しの回数を増やす

**2週間毎→1週間毎**

＜見直しのポイント＞

汚染量、サイズ、皮膚トラブル等

＜見直しの工夫＞

- オムツ早見表に吸収量をいれて参考にする
- 装着間違い防止の為、オムツBOXに表示する



# 取り組み ① 利用者に合うオムツ・パットの選定

<オムツ早見表> ※一部抜粋



商品名	吸収量	商品名	吸収量
LLリハ	300cc	オレンジパッド	600cc
スキコン スーパー	800~1000	緑パッド	700cc
スキコン ウルトラ	900~1100	紫パッド	800~1000cc
スキコン エクストラ	1500cc	装着レギュラー	300cc
介護用シート	500cc	装着スーパー	500cc

<オムツBOX>



# 取り組み①の成果

利用者の変化を素早く発見、対応し不快な排泄状況を短縮。

オムツ・パット変更の回数	変更した人数
1カ月に2回	42名中 12名
1カ月に3回	42名中 6名

皮膚剥離などの皮膚トラブル発見時も、速やかに対応。

臀部に優しいパットへ変更	42名中 4名
--------------	---------

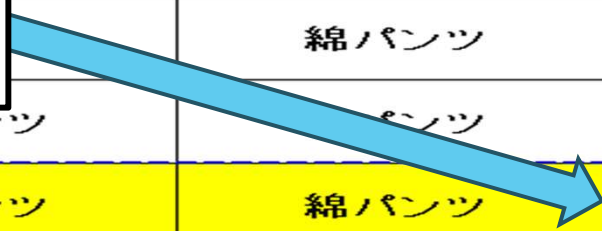
※オムツ・パット使用者42名は期間内の延べ人数

# 取り組み②自立排泄、綿パンツへ移行出来る方の 検討と増加を目指す

＜方法＞ 個々の排泄状況の把握の為、経過表作成

M 氏 R4/3/30入所					
部屋	番号	日時	昼間	夜間	備考
302	5	R4.3.30	L紙+本人用	L紙+エクストラ	※汚染どうか？
312	5	R4.6.10	L紙+本人用	Lリハ+厚手装着	※汚染↓オムツバット変更 ※夜間トイレ使用
		R4.6.23	Lリハ+装着	Lリハ+厚手装着	※汚染↓オムツバット変更 ※夜間トイレ撤去
		R4.8.4	Lリハ+装着	Lリハ+装着	※汚染↓昼夜装着お試し
		R4.10.20	綿パンツ+装着	綿パンツ+装着	※綿パンツお試し
				綿パンツ	※綿パンツのみ使用されている
		R5.5.30	綿パンツ	綿パンツ	※小規模多機能へ1か月退所
		R5.7.20	綿パンツ	綿パンツ	※R/7/13再入所 ※綿パンツ使用している？確認

排泄の課題を設定する





## 取り組み②の成果

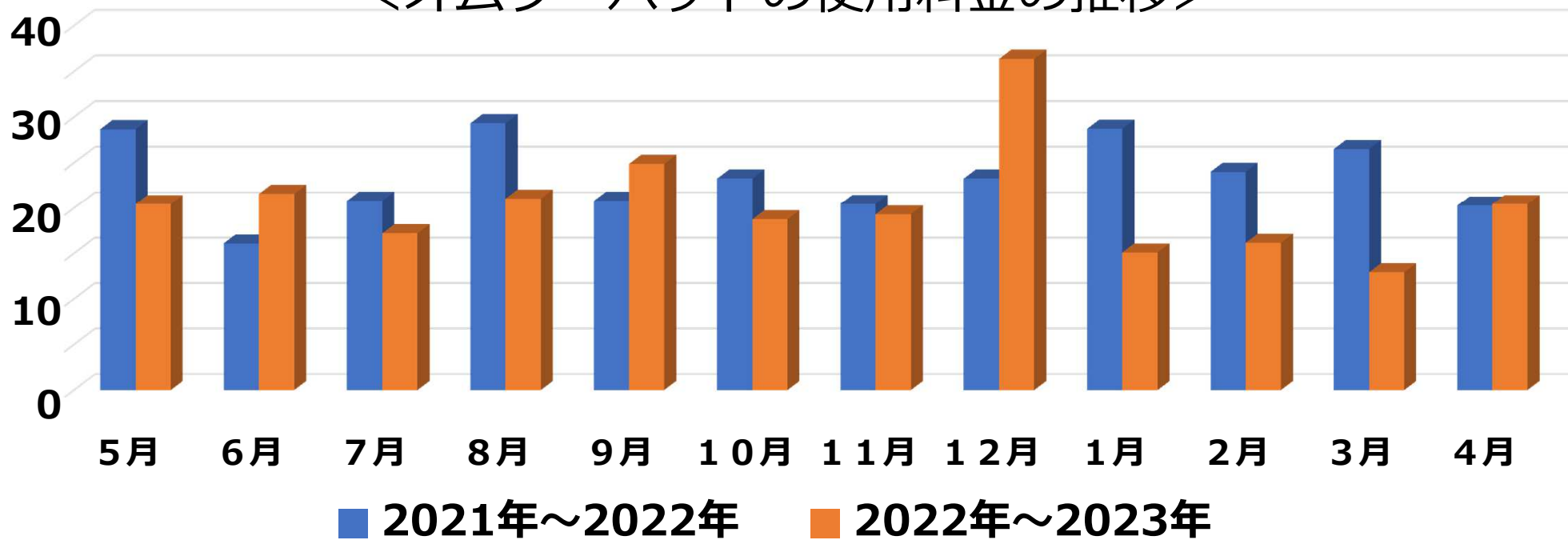
移行の種類	移行できた方
リハビリパンツ→ 綿パンツ	8名中 <b>2名</b>
紙オムツ→ リハビリパンツ	21名中 <b>2名</b>
リハビリパンツ+パット→ リハビリパンツ	21名中 <b>4名</b>

# オムツ・パットの大幅見直しの影響から

●研究期間1年間で約282万円から約244万円に減少

＜結果＞約13%のコストダウンがみられた。

＜オムツ・パットの使用料金の推移＞



単位：  
万円

# まとめ

## 取り組み①から

- 皮膚トラブルもなく、漏れが軽減し快適さを維持できるようになり、QOLの向上につながった。
- 適切なオムツ選びやこまめに見直す重要さがわかった。

## 取り組み②から

- 移行できた方は排泄ケアへの自信や満足につながった。
- 移行できた方の増加は、介助負担の軽減につながり、職員の気持ちにゆとりが生まれ、ケアの質の向上につながった。

# おわりに

今回の取り組みにより、

「快適に過ごすための排泄ケア」が実現できた。  
今後も利用者と共に排泄ケアの目標を模索し  
利用者本位の排泄ケアを提供出来るように  
努力していきたい。

## ご清聴ありがとうございました